

# 福島第一原子力発電所の状況

平成 23 年 12 月 2 日  
東京電力株式会社

## <タービン建屋地下のたまり水の処理>

### 高濃度の放射性物質を含むたまり水の処理設備及び貯蔵設備の状況

#### [処理設備]

- ・6/17 20:00 放射性物質除去装置の本格運転を開始。
- ・6/24 12:00 淡水化装置(逆浸透膜型)における処理を開始。
- ・6/27 16:20 循環注水冷却を開始。
- ・8/7 16:11 蒸発濃縮装置の本格運用を開始。
- ・8/19 19:33 第二セシウム吸着装置(B系ライン)を起動し、セシウム吸着装置および除染装置との並列運転によるたまり水の処理を開始。19:41 定常流量に到達。
- ・11/23 ~ 12/1 出口側の処理水圧力が高いことを示す警報が再び発生し自動停止していた、淡水化装置(逆浸透膜型)2 - 2ユニットについて、装置の外観点検(損傷、漏えいの有無)及び計器の指示値等による運転状態確認を実施し、問題ないことを確認。警報発生原因の一つと考えられる圧力スイッチの交換を実施。
- 12/1 11:20 淡水化装置(逆浸透膜型)2 - 2ユニットを起動。運転状態について、今後、継続して監視していく予定。
- ・12/2 11:00 ~ 13:00 頃 淡水化装置からパuffアタンクへの移送ホースにおいて、ピンホール7カ所による漏えいを確認(漏えいは1秒に1 ~ 2滴程度)。その後、止水テープにより応急処理を実施し、漏えいが停止したことを確認。漏えい水は放射性物質除去後に淡水化処理した水であり、漏えいは微量であることから環境への影響はなし。

#### [貯蔵設備]

- ・6/8 ~ 汚染水・処理水を貯蔵・保管するための大型タンクを順次輸送、据付中。

### トレンチ立坑・各建屋地下のたまり水の移送状況

号機	排出元	移送先	移送状況
2号機	・2号機タービン建屋	集中廃棄物処理施設[雑固体廃棄物減容処理建屋(高温焼却炉建屋)]	・11/30 18:03 ~ 移送実施中
3号機	・3号機タービン建屋	集中廃棄物処理施設[プロセス主建屋]	・11/15 9:25 ~ 移送実施中
6号機	・6号機タービン建屋	仮設タンク	・12/1 10:00 ~ 12/2 16:00 移送実施

移送先	移送先の水位状況 (12/2 7:00 時点)
プロセス主建屋	水位: O.P.+ 2,290 mm(水位上昇累計: 3,507 mm) 12/1 7:00 から 42 mm 上昇
雑固体廃棄物減容処理建屋 (高温焼却炉建屋)	水位: O.P.+ 1,689 mm(水位上昇累計: 2,415 mm) 12/1 7:00 から 78 mm 下降

### トレンチ立坑・タービン建屋・原子炉建屋の水位 (12/2 7:00 時点)

	トレンチ立坑	タービン建屋	原子炉建屋
1号機	O.P. < + 850mm (12/1 7:00 と同じ)	O.P.+ 3,415mm (12/1 7:00 から 30 mm 上昇)	O.P.+ 3,960mm (12/1 7:00 から 31 mm 下降)
2号機	O.P.+ 2,957mm (12/1 7:00 から 31 mm 下降)	O.P.+ 2,971mm (12/1 7:00 から 28 mm 下降)	O.P.+ 3,091mm (12/1 7:00 から 26 mm 下降)
3号機	O.P.+ 3,196mm (12/1 7:00 から 14 mm 下降)	O.P.+ 2,938mm (12/1 7:00 から 16 mm 下降)	O.P.+ 3,154mm (12/1 7:00 から 16 mm 下降)
4号機	-	O.P.+ 2,969mm (12/1 7:00 から 16 mm 下降)	O.P.+ 2,992mm (12/1 7:00 から 3 mm 上昇)

## <放射性物質のモニタリング>

### 海水核種分析結果(参考値)

採取場所	採取日	採取時間	濃度限度比(倍)		
			ヨウ素-131	セシウム-134	セシウム-137
福島第一 5,6号機放水口北側約 30m	12/1	8:45	ND	ND	0.01
福島第一 1 ~ 4号機放水口南側約 330m	12/1	8:25	ND	0.04	0.04
福島第二 3,4号機放水口付近	12/1	8:30	ND	ND	0.02
福島第二 1 ~ 2号機放水口南側約 7km	12/1	7:55	ND	0.01	ND

<使用済燃料プールの冷却> (12/2 11:00 時点)

号機	冷却方法	冷却状況	プール水温度
1号機	循環冷却システム	運転中(8/10 11:22~)	15.5
2号機	循環冷却システム	運転中(5/31 17:21~)	27.5
3号機	循環冷却システム	運転中(6/30 18:33~)	18.0
4号機	循環冷却システム	運転中(7/31 10:08~)	23

[2号機]・11/6~ 使用済燃料プール放射性物質除去装置の運転を開始。

- ・11/30 23:13 使用済燃料プール代替冷却システムにおいて、一次系ポンプの出入口の流量差が大きいことを示す警報が発生し、当該システムが自動停止。
- 23:34 現場を確認したところ、漏えい等の異常は確認されず。同日 23 時時点の使用済燃料プール温度は 22.7、予想される温度上昇は 0.3 /h であり、安全上十分な余裕があることから、12/1 午前中に調査予定。
- 12/1 点検・修理内容等について検討した結果、点検・修理機材の準備に時間を要することから 12 月 2 日に点検・修理を行うとともに、原因調査を実施する予定。
- 12/2 13:50 調査の結果、検出ラインにエアまたは異物が混入していたものと推定されたことから、清浄水によるフラッシングおよび水張りを実施後、当該システムを起動。(起動時使用済燃料プール水温度:28.0)

[3号機]・12/2 9:01 使用済燃料プール代替冷却の一次系ポンプ吸込圧力低下対策として、一次系ストレナのメッシュを交換するため、当該システムを一時停止。(停止時点使用済燃料プール水温度:18) 予想される温度上昇は 0.2 /h であり、冷却に問題はなし。

15:36 ストレナのメッシュの交換作業が終了したため、当該システムを起動。(起動時使用済燃料プール水温度:18.1)

<原子炉压力容器への注入・原子炉の状況> (12/2 11:00 時点)

号機	注入状況	給水ノズル温度	原子炉压力容器下部温度	原子炉格納容器圧力
1号機	淡水注入中 (給水系:約 4.5 m <sup>3</sup> /h)	43.3	44.5	117.7 kPaabs
2号機	淡水注入中 (給水系:約 3.0 m <sup>3</sup> /h, 炉心スプレイ系:約 4.3 m <sup>3</sup> /h)	71.7	70.6	111 kPaabs
3号機	淡水注入中 (給水系:約 2.1 m <sup>3</sup> /h, 炉心スプレイ系:約 6.1 m <sup>3</sup> /h)	60.0	68.3	101.6 kPaabs

[1号機]・12/2 10:35 給水系からの注水量を約 4.0m<sup>3</sup>/h から約 4.5 m<sup>3</sup>/h へ調整。

[2号機]・11/29 13:47 原子炉压力容器内への窒素封入ライン設置工事に伴い、原子炉格納容器への窒素封入装置を停止。

14:21 工事終了により、窒素封入装置を起動。

14:37 定格流量(26m<sup>3</sup>/h)に到達。

・11/30 13:45 原子炉压力容器への窒素封入を開始。

14:47 窒素流量が上昇しないことが確認されたため、窒素封入作業を一時中断。

・12/1 10:46 原子炉压力容器へ窒素封入操作開始(窒素流量が上昇しない原因を調査した結果、当該作業手順書に記載漏れの弁が存在し、その弁が閉まっていたものと判明)。

11:00 窒素封入量 5m<sup>3</sup>/h に到達。

12:10 原子炉压力容器および原子炉格納容器内への窒素封入量と、ガス管理システムからの排気量のバランスをとるため、ガス管理システムからの排気量を約 22 m<sup>3</sup>/h から約 34 m<sup>3</sup>/h に調整。

12/2 9:39 原子炉压力容器へ窒素封入操作開始

10:25 窒素封入量 10 m<sup>3</sup>/h に到達。

11:20 原子炉压力容器および原子炉格納容器内への窒素封入量と、ガス管理システムからの排気量のバランスをとるため、ガス管理システムからの排気量を約 34 m<sup>3</sup>/h から約 39 m<sup>3</sup>/h に調整。

[4号機][5号機][6号機] 特に変化なし。

<その他>

・10/7~ 伐採木の自然発火防止や粉塵の飛散防止を目的として、5,6号機滞留水浄化の水を利用し、散水を継続実施中。

・12/2 10:10~12:00 1号機原子炉建屋カバー-排気設備フィルタのダストサンプリングを実施。

13:00~14:00 1号機原子炉建屋機器ハッチ上部のダストサンプリングおよび風量測定を実施。

・12/2 12:00~14:00 2号機原子炉建屋開口部(フローアウトパネル)にてダストサンプリングおよび原子炉格納容器ガス管理システムのチャコール・粒子状フィルタのサンプリングを実施。